



「ぜひ聴きにきてください」と粕谷さん

輝いています

ひと

打楽器奏者

かす や とも み
粕谷 友美 さん

打楽器の魅力広めたい

マ リンバや大太鼓、ティンパニーなど、1000以上の種類があるといわれている打楽器。その楽器を巧みに演奏し、多彩な音色を奏でているのが打楽器奏者の粕谷友美さん（44歳・中央1丁目）です。今月7日に下蔵公民館で開かれる七夕コンサートに出演します。

幼少の頃からピアノを習っていた粕谷さんが打楽器の魅力を知ったのは中学生のときです。吹奏楽部に入部すると、リズムを刻み演奏全体を支える重要な場面で存在感を發揮し曲の世界観すら変えることができる打楽器のとりこに。そして桐朋学園大学音楽学部に入學すると、それまで触れたことのない打楽器の多さに驚きながらも、それぞれの持つ表現の豊かさに興味を抱き、技術を磨いてきました。

卒業後はフリーの打楽器奏者として活動を始めた粕谷さん。恩師の紹介でプロオーケストラなどに参加するも、理想の音が出せず悔しい思いをする日々が続きました。そうしたなかでも「どんな場所でもその場に合った最高の音を出したい」と奮起し、さまざまなジャンルの音楽を学び、演奏できる音色の幅を広げました。すると、培った多彩な音色でその場に合った良音を奏でる粕谷さんの演奏は、共演した仲間から「さっきの音最高だったよ」と、声をかけてもらえるように。その後もプロオーケストラや打楽器アンサンブルなどで数多くの演奏会に参加し、国内外で活躍を続けています。

七夕コンサートでは、あたたかく落ち着きのある音が特徴のマリンバをはじめとする打楽器の演奏を披露します。「耳だけでなく全身で感じてほしいですね」と話す粕谷さん。皆さんも美しい打楽器とピアノが響きあう世界を会場で感じてみてはいかがでしょう。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No.38 —



暁斎筆「暁斎楽画」より「鴨の親子」版本

『暁斎楽画』は、四季折々の植物に動物を取り合わせた「花鳥図」の画集で、明治14年（1881）に2冊組で出版されました。全34図の内、ここでは仲むつまじい鴨の親子の絵をご紹介します。この『暁斎楽画』の美しさは海外にも伝わり、フランスで有名なテーブルウェア「セルヴィス・ランベール」シリーズの

絵皿のモチーフに、34図の中から10図が用いられたり、フランスの美術雑誌『芸術の日本』の表紙に鶯鳥の図が掲載されたりするなど、高い人気を博しました。



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館 7月1日(月)～8月25日(日)

「暁斎いきもの図鑑」展
同時開催「第33回かえる展」

開館＝午前10時～午後4時
休館＝木曜日・毎月26日～末日
ところ＝南町4-36-4
入館料＝一般600円 65歳以上500円
高校生・大学生500円 小・中学生300円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください。
(20人以上の団体は要予約)
詳細＝同館 ☎441-9780

